

部署名	法人本部	事務局長	清水 広好
-----	------	------	-------

上田しいのみ会

1 昨年度の重点事業計画と達成度

事業計画	①	多発する災害に備えて、BCP(事業継続計画)を強化	①	各施設でコロナウイルスの集団感染や個別感染の対応を経験した。実際の実務的な対応につき、事前の計画通りにはなかなかいかず、経験した内容を更に検証し今後のBCP(事業継続計画)に活かしたい。
	②	社会福祉事業のICT化への対応	②	各施設でここ数年ICT化を図ってきたが、導入したものは概ね定着し通常業務から切り離せなくなってきた。今後導入したいものもあるが、費用対効果の見極めが必要であり、今後の検証とともに当面様子を見たい。
	③	介護人材離れに負けない求人・職員定着体制の構築	③	職員求人関係は、世間の景気動向にも左右されるが、介護・支援関係は特に厳しい状況を強いられている。通常の新規入職者の受け入れの他、外国人技能実習生の受け入れをしたり、職員入職後の定着率向上にも力を入れている。
	④	理念主導の法人経営と人材育成の強化	④	理念主導の法人経営を謳っているが、法人職員全員を対象に書面方式でレポートを提出してもらおう研修を実施し、それに応える形で法人理事長からメッセージを全員に配布し、理念の共有を図った。

2 昨年度実施した施設整備工事・整備設備等

職員寮の改修工事 1,224 万円

昨年度の修繕費合計 1,256 万円 固定資産取得費合計 146 万円

3 主な活動・実績等

①	<p>《計画的な職員採用の強化【優秀な人材を求めて】》： 令和4年度新卒者採用は、大学卒2名、短大卒2名、の計4名(男性1名・女性3名)で、中途採用者は11名であった。次年度(令和5年度4月から入職)の内定者は、短大卒1名、高校卒1名の計2名(男性1名、女性1名)である。コロナ禍でも『就職説明会』等へ参加し、各学校就職担当者とコンタクトを図ったり、ハローワーク窓口担当者と密にコミュニケーションを取ったこと等が功を奏した。</p>
②	<p>《第2期技能実習生の受入について》： 介護人材不足の折、高齢者部門に第2期外国人技能実習生2名の受け入れをした。その際に、職員寮の整備が不可欠となり、嘱託医の泉先生のご実家を借用し、約1200万円の改修費をかけて第1期生・第2期生含めた計6名の実習生を収容できる職員寮を完備した。</p>
③	<p>《法人監査への対応》： (1)8/10上田市福祉課による社会福祉法人上田しいのみ会への監査を受審： 法人監査は、コロナ感染禍の中何度も延長になっていたが、感染状況の合間を見てようやく監査受審となった。監査は時間短縮で行われたが効率的に実施され、かなり広範且つ詳細に渡る内容であったが、特に大きな指摘もなく問題なく終了した。 (2)9/14上田市監査委員によるつむぎの家の監査を受審： 直接的には上田市障がい福祉課に関するものだが、間接的な形で委託先が数か所選抜されて監査が行われた。特に問題なく終了したが、今後の建て替え問題にも一部言及があった。</p>
④	<p>《育児休業・介護休業法の改定への対応》： 育児休業・介護休業法の法定の改定に伴い、規程もそれに合わせて改定をした。社会保険労務士の笹井事務所と相談をしながら、就業規則も最新の問題に対応できるように改定をした。これに伴い、ハラスメント防止規程を新たに作成した。</p>

4 その他 報告事項

①	<p>《川西地域包括支援センター及び介護・福祉相談センターかわにしの状況》 令和2年6月1日の移転後から、訪問相談者や電話相談者が当初に比べ数倍増加している。又各自治会や公民館等で人権講座や認知症に関わる講座の依頼が増えており、予想以上の地域貢献につながっている。関係職員が業務繁忙により、高齢者世帯の訪問が疎かになるのを防ぐために、一部パートでの訪問相談員(職員OB)による定期的な訪問を実施している。</p>
②	<p>《つむぎの家の対応》 健康福祉部長・障がい者福祉課長・同係長等と当法人理事長以下関係幹部職員とで懇談をする機会があった。建て替えにつき、上田市所有の土地・建物の有効活用の一環で、使用が可能な場合にその場所でつむぎの家事業を継続することができるか?との問いかけがあった。現在上田しいのみ園が隣接することにより、給食、ショートステイ、緊急時の対応等が出来る現状があり、即答はしかねると回答してあるが、その後の進展は見られない状況である。</p>
③	<p>《室賀地籍2施設と上田市との土地契約について》 室賀地籍の2施設は、上田市所有の土地を無償でお借りしてきたが、9月30日で30年間の契約が切れたため、契約の更新を上田市にお願いした結果、取り敢えず5年間の無償貸借契約での更新ができた。今後の5年間で継続審議をし、上田市では従来無償であった契約を徐々に有償に切り替えてきており、当法人使用の土地もその例外ではないとするが、障がい又は要介護高齢者の生活困難者等の受け入れもしていることを理由に、次期契約更新時にも無償でお借りできるようにお願いしていきたい。</p>

施設名	上田しいのみ園	施設長	佐藤 淳一
-----	---------	-----	-------

上田しいのみ会

1 重点事業計画と達成度

事業計画	① 新型コロナウイルス感染症対策	達成度	① 昨年から引き続き、感染予防対策を徹底しました。ワクチン接種は継続して実施、ご利用者、職員、職員家族に感染者が出た場合には、早めの判断、対応によりクラスターになることもありませんでした。
	② 日中活動の充実		② 生産活動は室賀の里の清拭たたみは年間通じて安定した受注がありました。その他は年末の八十二銀行のカレンダー巻き以外受注がありませんでした。作業以外では季節に合わせたレクリエーションや行事など工夫をしながら活動を行うことができました。

2 ご利用者状況 (R4年度末 令和5年3月31日現在)

(1)生活介護及び施設入所支援利用者

①	施設入所支援定員	定員	40名	現員	39名	年間入院・外泊日数	493 日
②	施設入所支援性別	男性	25名	女性	14名		
③	平均年齢	男性	63.4歳	女性	64.2歳	全体	63.8歳
④	年度内入退所	退所	3名	入所	4名		

(2)生活介護利用者

①	生活介護登録人員	男性	7名	女性	6名	全体	13名
②	平均年齢	男性	44.2歳	女性	52.5歳	全体	48.1歳
③	新規登録者	男性	0名	女性	0名	解除	0名

(3)障害支援区分

区分	6	5	4	3	2	平均
入所支援	9	17	10	3	0	4.8
生活介護	6	1	5	1	0	4.9

(4)短期入所利用者

定員	2 名
短期入所の年間利用率	113%

3 実施した施設整備工事・整備設備等 (1件 100万円以上のもの)

① 特になし

4 修繕費合計 142 万円

汚水水中ポンプ入れ替え工事

固定資産取得費合計 524 万円

ほのほのソフトシステム更新・2段式業務用乾燥機

デスクトップパソコン2台・ノートパソコン1台・居室チェスト2台

5 主な活動・実績等

①	令和4年度はご利用者の退所や入院により定員を満たせなかったこともあり、自立支援費収入は前年比で120万円減になりました。またガスや電気といった光熱水費、食材費等の高騰もあり苦慮しましたが、節約等により収支は大幅なプラスとなっています。しかし施設内の設備、備品等に経年劣化が見られ、来年度以降、施設整備、修繕等の課題が残される状況になっています。
②	コロナ感染予防のため、緊張感のある日常でしたが、施設内での行事や活動を工夫し、また食事についてもご利用者の希望を聞きながら充実したものになるようにしました。またすべてを制限してしまふのではなく、近隣の感染状況を見極め、ご利用者の希望にできるだけ応えられるように帰省や面会の実施、職員付き添いでの外出等の支援を行いました。

6 その他 報告事項

特にありません。

施設名	相談支援事業所 椎の実	施設長	細川 裕夫
-----	-------------	-----	-------

上田しいのみ会

1 令和4年度の重点事業計画と達成度

事業計画	① 法人内障がい者支援施設利用者の相談支援を拡充します。	達成度	① 上田しいのみ園、しいのみ療護園、つむぎの家ご利用の方々の計画相談は予定通りに行うことができました。
	② 在宅利用児・者の計画相談にあたりサービス事業所との連携を図ります。		② 在宅サービス利用児・者については事業所と連携を取りながらの計画相談を行いました。新規サービス利用の希望もあり調整しました。
	③ 重症利用児・者のショート及び緊急一時支援ニーズへの対応のため法人の障がい者支援施設との連携を強化し受け入れに協力します。		③ 利用人数は少なめですが、計画通りに取り組むことができました。
	④		④

2 令和4年度のご利用者状況 (令和5年3月31日現在)

(1) 指定特定相談支援事業利用者

①	利用登録者	66名	(うち施設利用者	47名)
②	男性	41名	女性	25名
③	平均年齢	男性 60.2歳	女性 57.9歳	全体 59.3歳
④	年度内利用解除者	6名	年度内新規利用者	5名

(2) 障害児支援事業利用児

①	利用登録児	2名				
②	男性	1名	女性	1名		
③	平均年齢	男性 18.0歳	女性 11.0歳	全体 14.5歳		
④	年度内利用契約解除児	0名	年度内新規利用児	0名	継続基本相談支援利用児	2名

(3) 一般相談支援事業利用者

①	利用登録者	0名	地域移行・地域定着	0名		
②	男性	0名	女性	0名		
③	平均年齢	男性 歳	女性 歳	全体 歳		
④	年度内利用契約解除者	0名	年度内新規利用者	0名	継続基本相談支援利用者	0名

(4) 障害支援区分

① 指定特定相談支援利用者

障害支援区分	非該当:1名	区分1:1名	区分3:7名	区分4:15名	区分5:23名	区分6:19名
--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------

② 障害種別

身体障害:61名	知的障害:0名	精神障害:5名	重症児:2名	利用者総数:68名
----------	---------	---------	--------	-----------

3 主な活動・実績等

今年度末の登録利用児・者は上記のとおり総数68名でした。内訳は施設入所者47名及び在宅生活者21名(内児童2名)となっています。ご利用者の高齢化や心身状態の機能低下が見られ、2名の方が介護保険サービスへ移行、2名の方が亡くなられ、2名の方が長期入院のため登録解除になっています。児童の方1名については、養護学校高等部卒業後の生活介護利用に向けた支援を行いました。

施設名	上田市つむぎの家	施設長	細川 裕夫
-----	----------	-----	-------

上田しいのみ会

1 重点事業計画と達成度

①	聞き取りや満足度調査をもとに、ご利用者・ご家族のニーズにさらに対応できる支援体制を図ります。	達成度	①	個別の聞き取りや満足度調査により、ご利用者や家族の要望を確認して良質なサービス提供に努め、概ね達成することができました。
②	上田しいのみ園との日常的な職員及び利用者の交流を強化し一体的な運営を図ります。		②	コロナ感染対策を行い、状況を見ながら短時間の交流を行いましたが、行事参加などはできませんでした。
③	コロナウイルス感染予防対応をしながらも、楽しみの機会(行事・創作活動・音楽レクなど)をこれまで以上に工夫をし提供していきます。		③	手や指を使ってちぎり絵やスタンプ絵などの製作を行いました。多くの利用者楽しんでいただくため、行事については曜日を分けての分散開催を試みました。
④	建替え課題や事業内容・定員等の見直し等を上田市、法人及び利用児者、保護者、家族会、関係機関と具体的な計画協議を継続していきます。		④	上田市と継続して協議し情報共有をしていますが、コロナ感染対策のため家族・保護者会も見送りとなり、具体的な課題解決に向けての進展はありませんでした。
⑤			⑤	

2 ご利用者・児状況

(令和5年3月31日現在)

(1) 生活介護事業利用者

①利用定員【5人】	利用登録者【11人】	{男性:8人、女性:3人}	平均利用率(4.6人/日)
②平均年齢【26.8歳】	{男性:28.1歳、女性:23.3歳}		平均在園期間(14年4ヶ月)
③入・退園状況	入園(1人)	移行[放デイより](1人)	退園(0人)

(2) 放課後デイサービス事業利用学童

①利用定員【5人】	利用登録者【4人】	{男性:2人、女性:2人}	平均利用率(1.0人/日)
②平均年齢【13歳】	{男性:15歳、女性:11歳}		平均在園期間(5年9ヵ月)
③入・退園状況	入園(0人)	退園(1人)	生活介護へ移行

(3) 児童発達支援事業

①利用定員【5人】	利用登録者【0人】	{男性: 人、女性: 人}	平均利用率(人/日)
②平均年齢【 歳】	{男性: 歳 女性: 歳}		平均在園期間(月)
③入・退園状況	入園(人)	退園(人)	

3 主な活動・実績等

1. 設備・修繕等実施事業

①特に大きな修繕等はありませんでした。

2. 運営・活動状況

- ①本年度の生活介護事業は養護学校を卒業された方1名が放課後等デイサービスより移行され、登録が11名になりました。各曜日登録がほぼ埋まっており(放課後デイを合わせるとほとんどの日が定員オーバー)、養護学校卒業後の居場所についての課題が出てきています。
- ②放課後等デイサービスは利用児4名の登録があり、土曜日、長期休みを主に利用していただいています。コロナウイルス感染予防のため養護学校が分散登校の際には平日日中利用される方もいらっしゃいました。
- ③コロナ感染予防対策の中、例年通りの行事やしいのみ園との交流は難しさがありました。多くの利用者に行事を楽しんでいただくため、主な行事については曜日を分けての分散開催としました。
- ④つむぎ便りを毎月発行し、コロナ感染対応なども含め、つむぎの家のご利用者様の様子について情報提供を行いました。

令和4年度 事業報告

資料- 5

上田しいのみ会

施設名	しいのみ療護園	施設長	中條 孝
-----	---------	-----	------

1 重点事業計画と達成度

事業計画	①	施設利用者の減少が進む中、利用者の確保を重点に地域及び行政機関と連携し、情報の共有を行い、安定した運営を行う。	達成度	①	退所者が多く、新規入所希望者の減少もあり、利用率の回復に至らなかった。
	②	職員のスキルアップ研修を継続的に行い、専門職としての知識、介護技術の習得を目指し、施設サービスの質の向上に努めるとともに、次世代を担っていく中心的人材の育成を積極的に行う。		②	計画より少ないが、オンラインを活用した研修、県内開催の対面研修に参加しました。
	③	感染症等の対策を徹底し、利用者及び職員の健康管理に努めるとともに、事業継続計画(BCP)を定め、安心・安全な事業継続に向けた対応を進める。		③	防止対策等を行いました。11月に施設内感染が発生し対応しました。

2 ご利用者状況 (令和5年3月31日現在)

① 入所定員 50名 入所現員 46名 ② 退所者 7名 入所者 4名

③ 男性 28名 女性 18名

④ 平均年齢 男性 57.3歳 女性 58.1歳 全体 57.6歳

⑤ 障害支援区分
(障害者施設)

区分	6	5	4	3
男	20	5	3	0
女	16	2	0	0
計	36	7	3	0

重 ← → 軽

⑥ 年間利用率
 生活介護 87.8 %
 施設入所支援 88.9 %
 短期入所 16.6 % 定員 2名(内緊急対応1名)

3 施設整備工事・整備設備等 (金額が大きい上位3件)

① 障害者総合支援法対応ソフトウェアの更新 172万円
 ② 低床3モーターベッド5台 110万円
 ③ 厨房排気ファン交換工事 98万円

4 修繕費合計 220万円 固定資産取得費合計 348万円

5 主な活動・実績等

①	新型コロナウイルス感染症の防止対策を重点に行事の縮小、研修、会議等の中止、外出、面会の規制、ワクチン接種を行うなどの対策を行いました。11月に入り利用者17名、職員11名の方々の感染が確認されました。重症化する方もなく観察期間を含め4週間の対応を行い、その後の感染拡大を防ぎました。
②	短期入所においては地域生活支援拠点に関わる緊急ショートステイ業務を担う事業所として委託を受け、年間を通して1床確保し、受入、対応を行いました。
③	職員に関しては資格(介護福祉士4名、実務者研修3名、喀痰吸引従事者4名、社会福祉主事任用資格1名、)取得。オンラインの活用と県内開催の対面研修に参加し、専門的知識の習得を進めました。

6 その他 報告事項

--

施設名	特別養護老人ホーム 室賀の里	施設長	村上 恒夫
-----	----------------	-----	-------

上田いのみ会

1 重点事業計画と達成度

事業計画	① (特養) 徹底したコロナ対策、2リビング制の定着、BCP計画策定、新人教育方法の工夫と効果アップ、経費の削減、収入の確保、インドネシア2期実習生のスキルアップ、温かい接遇の徹底	達成度	① 7月から令5年1月の間、施設内で職員10名、入所利用者3名感染。内1名93歳男性死亡。その後は収まる。2リビング制は安定してきた。BCP計画の原案作成。新人教育は工夫しながら実践した。2期生2名N3合格。1期生1名はN2合格。
	② (デイ) コロナ対策の徹底、稼働率のアップ、業務改善、ミニデイのご利用者の増加		② コロナは職員3名、ミニデイ利用者3名感染一時お休みしたため収入ダウン。稼働率は前半アップしたが後半はダウン気味。経費の削減もはかり次年度には黒字化をはかりたい。
	③ (いきいき介護センター) 新規開所のしいのみ会相談センターかわにしとの連携と各事業所・医療機関との連携を密にしケアプラン件数の増加に努める		③ 相談センターとの連携は密になり新規プランも増え月100件を超える状況で推移できました。

2 ご利用者状況 (令和5年3月31日現在)

① 入所定員 68名 入所現員 68名 年間利用率 95.7%

② 男性 12名 女性 56名

③ 平均年齢 男性 83.1歳 女性 89.9歳 全体 88.9歳

④ 年度内退所者 22名 年度内入所者 23名

⑤	要介護度状況 (高齢者施設)	要介護	男	女	計(人)	割合	重 ↑ ↓ 軽	*平均要介護度 男性 4.58 女性 4.36 全体 4.4
		5	7	27	24	45%		
		4	5	22	27	40%		
		3	0	7	7	10%		
		2	0	0	0	0%		
		1	0	0	0	0%		
	合計	12	56	68	100%			

⑥ 短期入所の年間利用率 76.9% 定員 12名

3 施設整備工事・整備設備等 (金額が大きい上位3件)

① ご利用者用トイレ(通称氷沢山トイレ)改修工事 デイと案分 96万円

② 同上 特養と按分 96万円

③ 利用者居室 古いエアコン5台入替工事 87万円

4 修繕費合計 387万円 固定資産取得費合計 158万円

5 主な活動・実績等

①	(特養)コロナ禍で施設内感染と職員の五月雨式感染が起こりました。幸い、最小限の形で感染拡大は防ぐことができましたが、93歳の男性1名がコロナ感染に伴う肺炎で死去され、ご家族へは誠意を尽くしてお詫びいたしました。職員は子供さんが学校等で感染し、家庭内で2次感染された方がほとんどでしたが、速やかにお休みしてもらい皆回復しました。2リビング制はすっかり定着し効果的な運営ができています。インドネシア実習生が6名となり、さらに大きな戦力となっております。ダイバーシティの実践として今後も受け入れを進めます。
②	(デイ) ご利用者の獲得アップを目指し営業努力を続けましたが、水を指すようにコロナの感染等で一定期間の休業を余儀なくされたり、いったんアップした稼働率も後半は減少となりました。人手不足はある程度解消できましたが、期末に2名の自己都合退職者がありました。また、ミニデイのインストラクター派遣を御願っていたミックススポーツクラブの契約も今年度で打ち切りとなるので、運営のあり方について細かく検討し来期につなげたいと思います。
③	(いきいき)毎月ご利用者が契約終了(ご逝去・施設入所・転居・入院 等による)となる中、営業的努力により月100件をキープしてケアプランの作成にあたってきました。他の事業所も多く競争が激しい事業ではありますが、ケアマネ3名が連携し、ご利用者の意向や状況に沿った支援が続けられてきたと思います。ともするとご利用者のご家族との意見衝突も起こる可能性がある仕事ですが、そういった事例もなく、信頼される仕事ができていると思います。

6 その他 報告事項

コロナ禍で職員全体会や研修会等ができず情報共有や職員の意識を高めることが困難な状況が続いた。しかし、職員はそれぞれに法人の理念を忘れずご利用者ご家族の幸せのために懸命に努力を続けてきています。インドネシアの実習生も外国籍を感じさせないほど室賀の里に溶け込み、素晴らしい仕事をしてくれています。電気代など想像を超える高騰で施設の財政も大変厳しいですが、職員の労苦に報いるよう運営したいと思っています。

令和4年度 事業報告

資料- 6-2

上田しいのみ会

施設名	川西地域包括支援センター 相談センターかわにし	施設長	村上 恒夫
-----	----------------------------	-----	-------

【川西地域包括支援センター】 職員8名(正3、嘱1、パート4)

1 重点事業計画と達成度

事業計画	高齢者の介護予防、介護、福祉、保健、医療などの相談窓口としてあらゆる相談に対応する。実態把握や集まりに参加し、支援が必要な方の発見、ニーズの把握に努める。	達成度	新事務所へ移りまもなく3年を迎えるにあたり、センターの認知度は更に高まったと感じている。来所相談は旧事務所にいた頃の約7倍となり、電話相談や訪問相談の件数も増加している。引き続き、地域の高齢者のための『よろず相談所』としての機能を果たすよう努めていく。
------	---	-----	--

2 主な活動・実績等

①	<p>○介護予防・日常生活支援総合事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアマネジメントプラン作成:1,275件 ・介護予防支援プラン作:1,501件 ・地域リハビリテーション:27会場 ・センターを会場に地域リハビリテーション活動支援事業を活用した『音の輪クラブ』を月に1回開催。 <p>・川西有線と連携し、毎日のラジオ体操が定着した。 ※地域リハは新たに2会場が立ち上がった。コロナ禍の落ち着きにより、活動が再び活発化してきた。 ※健康推進課および高齢者介護課と連携し、『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施』モデル事業に取り組んだ。</p>
②	<p>○地域福祉推進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座:3回、オレンジカフェ『ひなたぼっこ』:11回(参加者のべ143名)、ワンコイン出前講座:21回 <p>・ホームページ、公式Facebookを活用し、地域での活動の様子をアップ。 ・LINE公式アカウントを立ち上げ、センターでの催しや地域での活動状況を配信。 ・川西公民館と連携し、2自治会で人権懇談会を開催。 ・川西まちづくり委員会、川辺泉田まちづくり協議会と連携し、地域の福祉課題への対応を行なった。</p>
③	<p>○総合相談支援業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談 実人数:2,158人(来所相談:741件) ・実態把握:239件 ・防火訪問は川辺、川西地区とも中止 ・孤独死:2件 <p>○ネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議:6回 ・包括だよりの自治会回覧:4回 ・民児協参加:2か所 ・まちづくり組織:2か所 <p>○権利擁護業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待相談対応件数5件 ・コアメンバー会議:0回 <p>・成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する相談:0件 ・上小圏域成年後見センターとの懇談会:1回 ・特殊詐欺被害相談:3件 <p>○包括的継続的ケアマネジメント業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談、退院カンファレンスへの参加 ・ケアマネ指導助言:3回 ・居宅介護支援事業所への予防プラン一部委託:44件 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症見守りネットワーク事業:9名登録(新規1名) ・実習生の受け入れ:長野大学2名(24日間)、2名(8日間)、信州上田医療センター看護学校4名(4日間) </p>

【相談センターかわにし】

職員1名(嘱1)

1 重点事業計画と達成度

事業計画	介護、障がい等の総合的な福祉相談の場として、情報の提供や施設紹介などを行う。	達成度	当法人の高齢者、障がい者施設事業の広報紙等を陳列して情報提供に努めた。 川西地域包括支援センターと連携し、地域の高齢者からの相談に対応した。
------	--	-----	---

2 活動状況

<ul style="list-style-type: none"> ・川西地域包括支援センターの行なうオレンジカフェ『ひなたぼっこ』に協力し、認知症に関する相談対応を行なった。 ・地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、かわにしミュージックセラピーの会『音の輪クラブ』を開催。毎月20名～30名の参加がある。センターに出入りしてもらうことで、法人のPRにも繋がっていると感じている。
--